

羽鳥駅橋上化及び周辺整備等の進捗は

7月より駅舎等の鉄骨工事に着手予定



村田 春樹

Q 現在の羽鳥駅橋上化、羽鳥駅周辺整備事業、駅前広場の進捗状況は

A 都市建設部長 羽鳥駅橋上化については、これまでは主に既存建築物等の解体を行ってきたが、今後は駅舎等の鉄骨工事に着手する予定。駅前広場については、昨年は仮設ロータリーを設置した。来年度からは、駅前広場の整備を進める予定。

Q 県関連事業の茨城空港、東京駅間高速バスの新停留所設置を

A 企画財政部長 現在、建設工事中の（仮称）石岡小美玉スマートインターチェンジアクセス道路を念頭に置いた茨城空港東京駅間の高速バスのルートの見直しは、定時性、速達性の維持向上の観点から大いに有効であると考えられ、県に確認したところ、現行ルートより時間短縮が見込めるとのこと。今後も県の動向に注視し、茨城空港の利用促進につながるよう努めていきたいと思います。

Q 空のえき「そ・ら・ら」は今後、指定管理者制度導入を視野に入れているのか、今後の展望は

A 産業経済部長 今後の展望は、地域再生拠点としたコンセプトのもと空のえき「そ・ら・ら」運営委員会を設置し、指定管理者制度の導入など、意見等を踏まえながら協議検討し、地域の方や市民が自慢できるような魅力ある施設として成長していくよう努力していく。



▲地域再生拠点施設 空のえき「そ・ら・ら」

知恵と工夫を凝らし明るい笑顔のサービスは

どなたにも優しいサービスのさらなる向上を



鈴木 俊一

Q 茨城県地域防災計画において、小美玉市は、東海第二原発から30km圏内に入っていないが、屋内退避をどう考えているか

A 危機管理監 知事の判断により注意喚起や連絡があった場合には、市民の皆様には速やかにお知らせする。

Q 原子力災害時、ひたひたなか市民の避難受け入れは

A 危機管理監 協定に基づき受け入れますが小美玉市民の安全と安心を最優先に考えながら、人道的な観点から協力させていただく。

Q 外国人の獲得に市の予算を投入するところもあるが、外国人労働者について市の考えは

A 産業経済部長 定住人口の増加対策として外国人技能実習生を推奨しているが、斡旋はしていない。

Q プレミアム商品券の発行を早められないか

A 産業経済部長 商工会と詰めながら、早い時期に発行できるように努める。

Q 茨城空港周辺に宿泊施設をどう考えているか

A 産業経済部長 リゾート型のホテル誘致は難しいので、ビジネスホテルのような宿泊施設が立地していただければと推進している。

Q 乳製品で乾杯を推進する条例の効果は

A 産業経済部長 小美玉ふるさと食品公社の売り上げは、条例施行後15.2%に増加している。

Q 茨城空港からの税収は

A 総務部長 公益のために直接占有する部分の固定資産税を減免している。今年度は1429万円のうち、701万円を減免している。航空燃料譲与税は、平成29年度で約396万円となっている。

Q 茨城空港周辺の開発は

A 産業経済部長 来年2月にレンタカー会社が、隣接地に本社機能を移転する開発行為が出ている。

小美玉市の財政の状況は悪化していないか

より一層の行財政改革に取り組む

戸田見成



- Q 小美玉市の災害対策を含めた危機管理を問う**
- ①災害廃棄物処理計画の策定は
②平成29年度防災訓練の反省会など課題の確認は実施したか
- A 危機管理監 災害廃棄物処理計画の策定については、新処理施設整備に伴い災害廃棄物の取扱いや処理対応等、検討していく必要性があり、今後、国・県・関係各機関等と連携し、取り組んでいく。また、防災訓練の反省会の課題の確認は、一般の方を対象にしたアンケートをもとに、地域の要望等を踏まえながら、多くの方が参加できる体制づくりや実践的な防災訓練のあり方を検討していく。**
- Q 他の自治体の職員不祥事発生と本市の職員管理の基本方針と確認状況は**
- A 総務部長 他自治体の職員不祥事発生は住民の信頼を損なう行為であり、非常に遺憾に思う。職員への綱紀粛正や法令厳守等については、庁議などを通じて定期的に周知をしている。改めて現状の把握を行い、適正管理に努めたい。**
- Q 学校教育について**
- ①学習指導要領改訂の対応は
②小中一貫校の教育の内容は
- A 教育長 新学習指導要領を踏まえ、今後10年間の教育施策方針となる教育振興基本計画を策定したので、計画的に進めていく。また、小中一貫校の教育の内容は、教育課程の編成等に向け、協議している。**
- Q 産業経済部長に問う**
- ①企業誘致はやるきがあるか
②「そ・ら・ら」の民間委託は
- A 産業経済部長 市の優遇措置も併せて、計画的な土地利用を推進し、企業誘致に取り組んでいる。また、「そ・ら・ら」は運営委員会を設立し、民間等への指定管理を目指していきたい。**
- Q 都市建設部長に問う**
- ①本年度の小川・玉里地区の道路事業の計画は(玉里地区が少ない)
②栗又四ヶ線の工事完了の見通しは
- A 都市建設部長 本年度、小川地区は15路線、玉里地区は1路線を予定。栗又四ヶ線の工事完了については、地権者、地域関係者のご理解を得ながら、早期完成を目指す。**

女性活躍推進事業の進捗状況は

女性対象の「マーケティングセミナー」等開催を計画

小川賢治



- Q H30年度の主な事業**
- ①女性活躍推進事業の進捗状況は
- A 市長公室長 本年度は、国の補助である「地域女性活躍推進交付金」を活用し、働く女性の人材を育成するため「女性のリーダーシップ開発講座」の開催や起業・創業者を考えている女性を対象とした「マーケティングセミナー」などの開催を計画している。**
- ②「夢先生」派遣事業について**
- A 教育部長 平成26年度より市内全小学校(5年生対象)へトップアスリート(競技、国籍、ジャンル不問)を「夢先生」として派遣し、子どもたちに夢を持つことやそれに向かい努力することの大切さを伝える事業を実施している。今年度から対象者を全中学校(2年生)まで拡大し、より具体的に将来をイメージする機会をつくり、夢の実現に向け、子どもたちの背中を押せるような授業を展開していきたい。**
- Q 観光行政について**
- ①ゴールデンウィーク中(4月28日～5月6日)の観光客数の状況は
②観光スポット振興策は
- A 産業経済部長 ①空のエリアとして、茨城空港への来場者数は、搭乗者を含め約4万7200人、空のえき「そ・ら・ら」には、約2万4200人、その他の観光施設等を含めると合計約9万6000人の人出があった。**
- ②小美玉市の恵まれた自然環境を観光スポットとし、ツアー会社等に情報提供するとともに、小美玉市の魅力を発信し交流人口の拡大を図ってきたい。**



▲空のえき「そ・ら・ら」牛乳まつりの人出

運営部青年層へ構想実現の為の事業資金を！

活動資金は趣旨に賛同し公共施設を利用

木村 喜一



- Q** 羽鳥駅前市有地、活用
の行方 サウンディング型
市場調査結果をどう評価
し、今後どのように活かすか
- A** 都市建設部長 民
間事業者の意見を聞け
たことは意義があった。
今後の進め方につい
て庁内関係課と協議を
行っており、できるだ
け早く市有地利活用案
のたたき台を示したい。
- Q** 駅周辺の将来像
- A** 都市建設部長 民間
活力を導入する方法を前
提に現在検討している。
- Q** 全国初の試み「ヨー
グルトサミット」成功
へと導く創意工夫は
- A** 企画財政部長 ヨー
グルトと市特産の野菜や
卵、豚肉などのアレンジ料
理の提供を検討している。
- Q** 酪農を核とした畜
産全般が繁栄する工夫
や新商品の開発状況は
- A** 企画財政部長 市内



▲ヨーグルトサミット運営部会の活動風景

- 飲食店や菓子店等にヨー
グルトを使った料理や
スイーツの開発、酪農体
験型観光企画の試作がス
タートしている。
- Q** サミット終了後、最
終的な本市の目標と将来
に渡り期待される効果は
- A** 企画財政部長 人財
を育み、異業種間に交
流を生み、本市の将来
の発展に大きな財産と
なるものと考えている。
- Q** サミット運営部会
の青年層への活動資金
の交付を望む
- A** 企画財政部長 基
本的に公共施設を活用
し、市内青年層の皆様
には、趣旨に賛同いた
だいた上で活動を行っ
ていただいている。

空のえき「そ・ら・ら」指定管理者制度の導入を

指定管理者への移行も視野に入れる

石井 旭



- Q** 第1回全国ヨーグルト
サミットin小美玉の進
捗状況を伺う
- ①ガバメントクラウド
ファンディング寄付金
1000万円の調達状況
とデメリットは②茨城県
の支援・協力体制は③実
行委員会が3000万円
の委託契約の主体になれ
るか、法的に問題ないか
- ④第2回の開催自治体は
決まっているか
- A** 企画財政部長 ①ガバ
メントクラウドファンディ
ングは、6月上旬を目途に開始
する。デメリットは、寄附金
なので、見込みを立てるのが
非常に難しい。②県農林水産
部所管の協力で、県内各関係
団体へ協力量請及び特産品普
及拡大を図るための補助金
100万円などの支援をいた
だいている。③実行委員会方
式は広く事業実施の手法とし
て採用されており、会則のほ
か、事務規定を策定し、市財
務規則に準じる形で事務執行
を行っていく予定。④現在の
ところ第2回の開催地に手を
挙げている自治体はないが、
- Q** 空のえき「そ・ら・ら」
の現状と今後の計画を伺う
- ①H29年度の収支状況は
②毎年イベントの業務
委託1000万円は販
売促進に繋がっている
か③駅長の雇用計画は
④早急に指定管理者制
度の導入を考えるべき
だと思いが⑤今後の拡
張計画の見解は
- A** 産業経済部長 ①収
入3075万4276円、
支出7424万5187
円。②H29年度の各
店舗の売り上げ総額が
2億5000万円、約2%
の増額となっている。
- A** 市長 ③これまでの
幅広い人脈や実績を踏ま
えて、現在の駅長に継続
してお願いする。④今年
度、運営委員会を設置し
て、指定管理者への移行も
視野に入れながら、今後
のあり方を検討していく。
- A** 産業経済部長 ⑤茨城
空港周辺の賑わいづくり構想
の一環として検討していく。



後期高齢者健康診査の無料化を

広域連合等と連携を図りながら検討していく

福島 ヤヨビ

Q 後期高齢者健康診査について

健康診査をより多くの高齢者が受診しやすいよう後期高齢者の受診負担の無料化を願う

A 保健衛生部長 後期高齢者検診は原則無料だが、追加項目の心電図、貧血、眼底検査は2150円となっている。H28年度の受診率は18.3%で国保特定健診より低い。追加項目の自己負担金は市の財政状況等を考慮し、今後検討していきたい。

Q 窓口サービスのワンストップ化はどう進んだか

ローカウンターや仕切りなどができたが、プライバシーを守るうえで高齢者等にも優しい十分な対応ができていない

住民サービスの基本である笑顔や挨拶がしっかりとできているか

A 小川総合支所長、玉里総合支所長、市長公室長 窓口サービス向上に向け、協議を重ね、小川

総合支所、玉里総合支所、本庁それぞれロー

カウンターを活用し、高齢者、妊婦、障がいのある方にも十分配慮し、プライバシー問題にも個室で相談等を受けている。今後もワンフロアワンストップサービスの体制づくりを推進すると共に、窓口業務の質の向上に努めていきたい。

Q ごみ減量化の現状は新ごみ処理場の状況説明は十分になされているか

A 市民生活部長 H23年度一人1日632gから各年次の減量目標を定めており、住民、事業者の理解協力を得ながら、今後も3Rを推進していきたい。新ごみ処理場については、事業主体の霞台厚生施設組合が住民説明会やウェブサイト等で情報提供に努めており、地元市としても組合と連携しながら周知を図りたい。

本市の「シティプロモーション」は

小美玉にゆかりのある人たちの心に響かせる

谷仲 和雄

Q シティプロモーションへの取り組みを聞く

A 企画財政部長 まちに住む人や関わる人、出身者など、まちにゆかりのある人が、まちの魅力を語れるようになり、それが、まちへの親しみや愛情・まちへの関わりを深めることに繋がり、郷土愛と当事者意識が高まっていく。

この流れの中で、一人ひとりの可能性や地域の魅力を発掘して磨き上げ、光をあてて市内外の人の心に響かせる。小美玉市民や本市にゆかりのある人たちが主役・主体のシティプロモーションへと繋げていきたい。

Q 「わかりやすい財政白書」が作成されホームページで公開されている。市民協働と戦略的なまちづくりを進める上で、行政と市民が

財政情報を共有し、まちづくりの共通認識を持つことは必須条件と考える。「作成」から「活用」へ、わかりやすい財政白書の活用は？

A 市長公室長 情報共有に努めるため様々な情報をわかりやすく伝える必要がある。本白書については各団体の会議等において資料として配布したい。

また、広報おみたまへの掲載を調整・検討するとともに、財政情報を含め市政全般における情報提供についてホームページの適切な更新に努める。



▲小美玉マーケティングスクールの様子

小川運動公園施設の整備・充実を

公共施設等総合計画を踏まえ、検討していく



長島 幸男

Q 施設改修計画（長寿化計画）について

小川運動公園体育館の雨漏り、外壁の老朽化、駐車場の街路灯の整備等指摘をされているがその対応について伺う

A 教育部長 施設の状態について、建設から相応の年数が経過しており、老朽化から維持修繕費等も増加傾向にある。体育館は耐震基準が満たされていないことから、公共施設等総合計画を踏まえ、耐震診断を実施し、施設のあり方や対応について検討していきたい。

また、体育館等の修繕についても現地確認のうえ、検討して進めていく。

○施設は40年以上経過しており、早急な整備対応をお願いする。

Q 施設の内容の種類及び利用状況について伺う

A 教育部長 施設の利用者数は、平成29年

度、野球場6375名、テニスコート4038名、多目的広場6406名、体育館4719名、管理棟1082名と多くの市民に利用されている。



▲小川運動公園の体育館等施設

【その他の質問】

○小美玉市スポーツ推進計画について

・子どものスポーツ機会の充実について

・生涯スポーツ環境の推進について

・スポーツ環境の充実について

・スポーツ施設の充実について

小学生のプログラミング教育のサポート体制は

ICT支援員の効果的な活用方法を考えていく



*お詫びと訂正：議会だより第49号の植木議員の一般質問の「中高生のひきこもり」は「中高年のひきこもり」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。

Q 小学生のプログラミング教育の必修化について

A 教育長 市内小学校には、コンピューター室のPCの他に、普通教室で使用できるタブレット端末機をグループに1台の割合で整備している。教員のサポート体制は、市内6名のICT支援員が、各校へ月に2回配置され、教材の準備や授業への支援、職員への校内研修支援を行っている。ICT支援員については、プログラミング教育導入後も、効果的な活用を探りながら進めていきたい。

修センターにて今後受講予定である。

また、校内研修として市内消防署等職員に講師を依頼し、AEDを含む普通救命講習を市内の中学生全員が受講している。今後実施していきたい。

植木 弘子

Q オレンジカフェの実施状況と今後の取り組みについて

A 福祉部長 オレンジカフェは、認知症の人とその家族、地域住民と専門職員の集いの場を提供し、認知症の人を抱える家族の介護負担の軽減及び社会的孤立防止を図るために実施している。昨年度は試験的に3回開催し、延べ15名の参加があった。

本年度より社会福祉協議会に委託し、毎月1回開催、実施場所の拡充については、今後検討を進めたい。

【その他の質問】

Q AEDを含む救急救命講習の教職員への実施状況など、具体的な取り組みについて伺う

A 教育長 昨年度末の時点で、校長、教頭、教諭、養護教諭は、AEDを含む普通救命講習を全員が受けている。今年の新規採用教職員も、茨城県教育研

○一人下校児童の安全対策について

※ICT支援員とは：学校でICTを利用した授業が円滑に進むように教員や児童生徒のICT活用を援助する人。